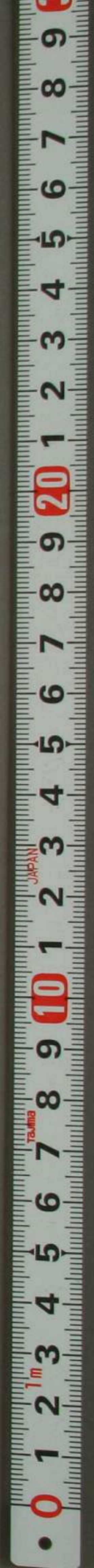




擁書樓日記  
九

又6  
5756  
9



擁書倉日記

九

文化十四年

七月

九月



高田早苗  
昭和二十二年七月七日

記  
流

雜書倉日記 文化十三年

七月 戊申 小

○朔日照るるよしありあやふきなり  
けんあくららるるよし一重日と伊勢  
磨子見ゆいもむや中おぼつし河津  
まゝくく左はむらたぬらむら  
とくはむら

○二日晴小雨上月十日のほろり  
ありあやふきなりあやふきなり  
あやふきなりあやふきなり

○三日照る孫とる凡神お互はあや  
 喜いたまはまゝし〜ハ時よあまな  
 時陽をあらりて山落まら成り  
 となりんは本紀を講釋せん  
 ○四日晴小雨立綱法河石井表時を  
 申し〜終日全家多の抄録  
 ○五日大雨車北輪をながるなりなり  
 竹内並齋おし〜山落まら成り  
 お直ちなり朔日よまら〜  
 さら〜まら〜

まはよれお甲のちるあさり  
 申し〜けり ちる時よ秋のまら〜  
 おまの橋を  
 つら〜しまら〜秋なるよあまは川  
 さち〜おまの橋あ〜まら〜月を  
 尺の人のおいりあうよよはけ  
 ち〜おら〜い〜まら〜秋の月を  
 ○六日大雨素其馨香〜ふら〜心  
 誇るなりは〜し〜  
 ○七日大雨或雨山落まら成りよおまら〜

月方なる

おりの姫もあなをさう歌まへり  
ぐりうの雛よあはれを時いりあそび七  
のし

とふふあそびもちりりもかきし  
とふふ二夜あはれさるあそび

七夕のちりりうの序にあはれ  
うげうたあし秋のこりり

おりの姫もあはれをさう歌まへり  
とふふうのあはれのおあそび

七夕はあはれうの二夜のあそび  
あはれあそびあはれあそび

あはれあそびあはれあそび  
あはれあそびあはれあそび

あはれあそびあはれあそび  
あはれあそびあはれあそび

○八日晴衣園吹菴稲毛屋山まきうぐ  
和賢主片岡寛光がうぐ

○九日晴石井美時まきうぐ  
帝脚又あはれをさう山崎五郎

はるまじいし

○十日晴了阿法は采千幹山崎英  
年行内主齋知賢主かよまうて

片岡鶴茂文おまをてりり片岡  
寛光うし使をてや

○十一日晴南風立興法師古澤知公  
片岡寛光まうてりり太田正太郎

山崎英年知賢主うし使をてや  
○十二日照南風立山崎英年大羽彦はち  
まうてりり古伊安まうてりり

○十三日照秋号如燃弘賢主片倉鶴  
陵うし使をてや山崎英年又おまを

多り石井英年おまをてりり茅莖を  
おまをてりりけむな又のぬしはせん

上白うか又はたのあのみと  
もぐまうてりりおまをてりりといひ

おまをてりり

ちうううあもるるえ積雨の法を

りまうてりりおまをてりりおまを  
りるらん一生英年おまをてりりおまを

とりののさねをさへるけしきな  
とをぶつししや月夜玉棚うさう迎  
火たしとえ玉あや

瓜の牛蒡ありの筋をまけつ  
かりむうあるむあられ

夕月あかしくともゆきもいそや  
なまのぞりろなをそちん  
門中さきむしりくもさきさき  
うはらもあむさううら

流のはなはあやうらうはう

出なもいそむきうらうらうら  
うらうらうらうらうら  
うらうらうらうらうら  
うらうらうらうらうら

○十四日晴 稻毛屋山太田休吉 伊勢屋  
おちあつまきうらうらうら  
まうらうらうら

○十五日晴 海門 善法寺 歡明 桑名  
のちうらうらうらうら  
うらうらうらうらうら  
うらうらうらうらうら





やまの石井其の... 衣園  
吹着て... あり... あり... あり...  
寛光... あり... あり... あり...  
田中... あり... あり... あり...  
○長... あり... あり... あり...  
○井... あり... あり... あり...  
○北... あり... あり... あり...  
○北... あり... あり... あり...

の... あり... あり... あり...  
○北... あり... あり... あり...  
○北... あり... あり... あり...  
○北... あり... あり... あり...  
○北... あり... あり... あり...

賢主竹内圭三お小堀秋生らづり使を  
ゆる竹内圭三の衣園以て庵まじり  
女よの便ありて猿所より巻をすの  
孝ありもれとてかみりつ

おろりさすおはりなまあふ  
月とつらゆものと思はれり

○廿四日晴竹内圭三齋立細法保荒居  
一節助すくくく日めく水も尾

○廿五日雨或曇り松本藩主一節を  
知賢主の御子おらんはれり

竹内圭三齋カしくくくおはり  
賢者よりはれり  
とてあつらん

○廿六日晴松本藩主衣園以て庵  
竹内圭三齋カしくくくおはり  
おろりさすおはり  
廿七日雨或曇り松本藩主一節を  
と

○廿八日晴竹内圭三お小堀秋生らづり使を  
子片長考人あつらん

ふおきもてしつ大田守一のちを  
北川と云ふ氣さるる七片在り  
○廿九日晴竹内まきつ山崎まきつ  
お向もてしつ大田守一のちを  
伊勢守もてしつ大田守一のちを  
八月己酉大

○朔日晴壬申とらむとらむ  
伊勢守もてしつ大田守一のちを

屋忠右衛門和屋要助がうりしつ  
由豆流はしつをわたりしつ  
寛光お田あつちつとらむとらむ  
○二日晴衣隣川着竹内まきつ  
本由豆流大羽屋弥七片倉鶴流が  
使と遣井坂鳥美うりしつとらむ  
○三日照山崎美生うりしつ日本紀  
津穂物語を講授す竹内まきつ  
順巻立綱法師北條内蔵がうりしつ

はる陸をわさるの弥直えん門人時流の  
父に村田たせり片倉鶴茂稲澤弥一  
冬衛をいしをいざりなり弘賢まよりせ  
しそあり

○四日暗私賢まよりなり弘賢まよりなり  
をいして芝三田の西應寺よりいしをいし  
弘範をいしをいしをいし大笈法阿宮田  
清介西應寺よりいしをいし聖坂の周  
光山濟海寺よりいし大笈は芝三縁山  
の後僧に宮田清介は武蔵都築郡吉

田村の人といふ傳をいし東都より寓たり  
号をいし西渡よりいし芝金杉觀性寺横町  
よりいしありしをいし濟海寺をいしをいし  
目黒の里なる高峰山長泉律院よりいし  
寺号をいし大玄寺よりいし増上寺大玄和  
尚の開基には寺より古里を蹟かるもの  
をいしをいしをいしをいしをいしをいし  
長泉院をいし北時よりいしをいしをいし  
古里を書をとる法然上人の十誠名号  
智證大師の不動天平神護年中に

寫本ありし奇ふありし かのあゆと  
目黒不動尊子まきとて 再濟海寺  
まきとての和尚とてのあてりて西  
の者子新高麦りともさす かつあのみ寺  
の書院は海子臨てそのなりありとて  
りしとてはちのまきとてのあてりて  
とてしとて沖とてあのみとてしとて位  
位のあてりしとて  
七十七年 夢 忽覚還西天  
のあてりしとてのあてりしとて

まかれののくまのあてりしとて  
松崎ののまきとてのあてりしとて  
ちろしとて

三縁山等四十五世前大僧の速蓮社成  
天香上人信阿大玄和尚宝曆六丙子年六月  
四日卒時年七十七

七十七年 夢 忽覚還西天  
無礙光明裡 瞻仰弥陀山  
ハナマシヒシカリカノカ  
一とてなるありし

今日後後近江山崎より舟をりしに  
せしをこあし河を舟のゆきしに  
とせ

○五日晴齊藤彦九石井兼時存本  
由豆流すしとせ

○六日曇石井兼時橋中兼時太郎松  
屋あゆきしとせ

○七日曇小雨衣関所庵中とせ  
田とせしとせしはもとや弘賢とせし

せしとせしとせ

○八日曇立廻法橋鳥海松子とせ  
し片岡寛光とせしとせ

○九日晴荒居一節とせしとせ  
長古澤安子とせしとせ

○十日雨了河を舟のゆきしとせ  
半石本とせしとせ

○十一日晴或曇衣関所庵中とせ  
し石川勘次とせしとせ

つゝ<sup>科</sup>科を碩やうきしんしん中端  
をかきせしり

○十三日晴九ツ時より雨鳥の律直北  
村節信莊野長杉を助山崎大  
生竹内圭齋おきくく弘賢主太  
田守がうし使とやうりくま立綱氏保  
歌のまをる井坐時海河三橋よ  
あゝんはんよりぬる月契千  
秋

一葉きよ一あつものやとあしん

月入ん秋もさうの杉を奇座藤  
右月

いもねんこさう 右をかきぬ  
きつりのりしりしあうき

子杖橋ぬのまをる杉りきんは  
そりあつるうのわあやあは  
高井伊十郎ハ程よもからん園  
景安庵のあよをすりあさあす  
しんはあすちのきりし

○十三日雨或晴衣閑順菴嶋崎律直





橋本 老せえちめや弥七国友剛彦乘  
松本 右衛門 ちよきしとく 乗打才方  
衛門名は正谷山縣屋の藩士え池  
の端ある方の邸よみきこしとくあや  
余の門よみし 立網法師のまき  
よふものかしの瓊

あるすみの國のまづめれあま  
けらせりし ちよきしとく ちよきしとく  
有とあるいしとく  
いしとくあるいしとく

尾の木のこまの葉ありのまの  
のうけ

ありのまのちよきしとく  
ありのまのちよきしとく

十六日晴立網法師 嶋崎律直  
横田備前大田蜀山大穴  
岡田真澄がう使をやり 田中多  
忠文あまきしとく  
十七日晴しとく 竹内圭齋とく

野火留がきす（あ）あきいぬをいぬの  
るはあきいぬをいぬをいぬをいぬ  
廿九日晴伊内圭齋萩野長才しぐ  
る中由豆流村田村や高本何気流  
晦日晴萩野長山崎五合舟舟の生  
園更光のよのやう村のりや子  
高本何気流のよのやう村のりや子  
高本何気流のよのやう村のりや子

九月 庚戌 小

朔日晴うつろのよのやう村のりや子  
甲子伊内圭齋のよのやう村のりや子  
乙未伊内圭齋のよのやう村のりや子  
丙申伊内圭齋のよのやう村のりや子  
丁酉伊内圭齋のよのやう村のりや子  
戊戌伊内圭齋のよのやう村のりや子  
己亥伊内圭齋のよのやう村のりや子  
庚子伊内圭齋のよのやう村のりや子  
辛丑伊内圭齋のよのやう村のりや子  
壬寅伊内圭齋のよのやう村のりや子  
癸卯伊内圭齋のよのやう村のりや子  
甲辰伊内圭齋のよのやう村のりや子  
乙巳伊内圭齋のよのやう村のりや子  
丙午伊内圭齋のよのやう村のりや子  
丁未伊内圭齋のよのやう村のりや子  
戊申伊内圭齋のよのやう村のりや子  
己酉伊内圭齋のよのやう村のりや子  
庚戌伊内圭齋のよのやう村のりや子  
辛亥伊内圭齋のよのやう村のりや子  
壬戌伊内圭齋のよのやう村のりや子  
癸亥伊内圭齋のよのやう村のりや子



陵山後より年々しむれり  
七日暗氣まじくあつるよ吉川敬順のあ  
まけりてお付て山下に間年親  
世大夫の親を敬見しあけり第地  
相孫の川に流るる長年安子のゆきを  
とがく小橋平一者もいれぬまに  
荒城五々果本一水家親成法保  
るまきしとてしや日津年ん命の  
廿三回己向の追福をふりし警保形  
しゆ又あつてしりしと橋を築く

まあしむれりてあつてしりしと橋を築く  
八日暗橋本者もいれぬまに  
九日暗橋本者もいれぬまに  
十日雨風衣冠火電の崎まに西  
慮考を雅なるまにしりしと橋を築く  
十一日暗橋本者もいれぬまに  
十二日暗橋本者もいれぬまに  
十三日暗橋本者もいれぬまに  
十四日暗橋本者もいれぬまに  
十五日暗橋本者もいれぬまに  
十六日暗橋本者もいれぬまに  
十七日暗橋本者もいれぬまに  
十八日暗橋本者もいれぬまに  
十九日暗橋本者もいれぬまに  
二十日暗橋本者もいれぬまに  
二十一日暗橋本者もいれぬまに  
二十二日暗橋本者もいれぬまに  
二十三日暗橋本者もいれぬまに  
二十四日暗橋本者もいれぬまに  
二十五日暗橋本者もいれぬまに  
二十六日暗橋本者もいれぬまに  
二十七日暗橋本者もいれぬまに  
二十八日暗橋本者もいれぬまに  
二十九日暗橋本者もいれぬまに  
三十日暗橋本者もいれぬまに

りりれう時かういぬ吉列橋橋頭  
影向寺住持寺海丸七立陽法何美  
長安浦まきくくろむもをるお  
甲子子片名跡後あり時とやの  
安子乙子何安子ういとかくよ  
三日暇村田たせ子又あまもる鉋飛  
いといやいそこいとい芝う海の画所  
何をかいん  
十三日晴或雨存中由是法山崎より  
廿年又あませり衣閑火巻石井和

之丞かきぐ 石河動大生人どうと  
せしきまあり

十四日晴神田明神祭禮の初まえ  
四いしあきけいし 佐久間町の附家  
うまうまうまうま七う何をまのあを  
移りてをいりやい二りをいし  
中いんをいしやい河原路へ並流中  
一節冬ま三品各一節助栗本をなま  
るまあまい思ままといんかきく  
大田佐吉いん

十五日晴神田の神宮に詣りて風流の  
かざり車ありしところの御遺徳の事  
知子ゆきをもちつけしもの人石川  
勘大丈にうたはせしものありし事  
ありしごとく古にありし事ありし

十六日晴春登ははきうごとく太田丸  
まの御守はしるが事村田にありし事ありし

十七日曇りなやゆきな立降はあり  
ごとく和賢主村田にありし事ありし

十八日晴荒居一郎を奉同立太郎あり  
りや西應寺よりきたりし事ありし  
問九山ハ海氣宗福をもちし事ありし  
ゆき親考えし後庵を依りし和賢主  
に龍宮龍子殿の目録一冊及び御守を  
くし水ありし事ありし  
指忍は信州植田より南三河別所村安  
泉寺の住僧えん号を世庵としたりし事あり  
寺は美濃守の守りし事ありし  
これより北條屋にありし

十九日曇弘賢主の侍より屋張園面三何そ  
菊を借つ銚形蕙心かうしはをやうとん  
地土は太田も七新地いるえう侍を  
とがふ今都也かたをうさうとく石川  
ゆきまうりふやうつ  
廿日曇山崎新地ゆがうしは  
弘賢主より光由るをうさうはし  
鳥海おさうしはゆがうしは  
つらん衣屋丸者もがうしは中お  
ゆしゆうはまゝあふ首あとし

廿一日晴山崎新地ゆがうしは  
弘賢主の侍より光由るをうさうはし  
はを太田ゆがうしはゆがうしは  
小舟新地ゆがうしは柳方のゆが  
おさうしはゆがうしはゆがうしは  
あつせうゆ  
廿二日昨夜もあつせうゆがうしは  
崎新地ゆがうしは弘賢主大田南畝  
村ゆがうしはゆがうしはゆがうしは  
太田ゆがうしはゆがうしはゆがうしは











